

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 212

2022・03・30

ちるは桜 落るは花の ゆふべかな

— 蕪村 —

初夏のような暖かな日もあれば
真冬の寒さが身にしみた日もあり
なんだか落ち着かなかった三月も
過ぎようとしています。

新学期の始まる四月。

子どもたちが制約なく楽しく遊べる日が
やってきますように。

そして

世界中の誰もが

自由に幸せを感じられる日が

一日も早く訪れることを祈ります。

○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 速報！30年ぶりに司書の新規採用が復活します	…1
☆ 「図書館とともだち・鎌倉」を訪問させていただいて 青山学院大学教授 大谷康晴	…2
☆ 「図書館とともだち・鎌倉」をお訪ねして 池田果耶	…3
☆ ファンタスティック☆ライブラリー110 が閉幕しました	…4
☆ 第24回総会報告	…4
☆ 「写真集」は「基金」ではなく市の予算による出版となりました	…5
☆ どうなっているの？神奈川県『読書・パリアフリー推進計画』	…6
☆ 「子育てサロン 西鎌倉ぽっけ」お話し会参加報告	…7
☆ 「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」三年目の如月を迎えて	…8
☆ 松坡先生をめぐる人々5 海上寿子 袴田潤一	…9
☆ NPOセンター利用登録団体懇話会参加報告/銀幕情報	…10
☆ 湘南邸園文化祭連絡協議会第三・第四連絡会報告	…11
☆ ボランティア連絡協議会報告/協働事業推進部会報告 /活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12



速報！30年ぶりに司書の新規採用が復活します

1993年を最後に途絶えていた司書の専門職採用試験が2022年度に実施されることになりました。新規に2名の司書を一般職ではなく技術職として2023年4月に採用される見込みです。

昨年の9月議会で司書の新規採用を求める陳情が採択されて以降、鎌倉市の行政が市民の要望や議会の判断にどのように対応するのか、なかなか見えてこない状況が続いていました。2月議会が始まり、代表質問に立った高野議員からの「司書採用はどうなっているのか」という質問に対して、教育長は「来年度当初（本年4月）の採用はないが、来年度末に退職予定の2名に関しては専門職体制が維持できるように対応したい」と答弁しました。退職する技術職司書の補充のためには新規に司書採用すべきではないかという再質問に対しては、「技術職として採用するかどうかは未定だが、司書有資格者を採用する」と教育長は答えています。「採用する」という言葉があったので期待感をもってその後の動きを注視していたのですが、常任委員会、一般会計予算等審査特別委員会ではこの件についての質疑はなく、3月22日に開かれた図書館協議会でも図書館からの経過説明はありませんでした。

そこで、図書館協議会を傍聴した後、教育委員会を訪ね、教育文化財部長にアポなしで面談させていただき、冒頭に述べたことを知ることができた次第です。採用の具体的スケジュールや公募対象が新卒

のみか経験者も含むかなどの詳細についてはこれから検討するということでした。

なお、同じ3月22日付で発行の鎌倉市職員労働組合の機関紙「あゆみ」にも「教育委員会から2名採用の回答」という記事が掲載されています。その後、組合に確認したところ教育委員会からの回答は3月3日にあったということなので、もう少し早く現場の責任者からこの情報が市民に届けられるといいと思いましたし、図書館協議会でも報告されるべきではなかったでしょうか。

いずれにしても、当会の署名活動に協力していただいた皆様、陳情採択に賛成してくださった市議の方々、司書採用に向けて奮闘・努力してきた鎌倉市職労に深く感謝申し上げます。（和田安弘）



1月26日、青山学院大学コミュニティ人間科学部の先生と学生さん3人が、市民のNPO活動を調査される為TOTOMOの例会に参加されました。当日のご感想を送ってくださいましたのでご紹介します。

「図書館とともだち・鎌倉」を訪問させていただいて

青山学院大学コミュニティ人間科学部教授 大谷康晴

『図書館とともだち』をご覧になられている多くの方にははじめまして。私は青山学院大学の大谷康晴と申します。私は、この大学の相模原キャンパス（最寄駅はJR横浜線淵野辺駅）にあるコミュニティ人間科学部(2019年4月1日開学)に所属しています。この学部は地域の問題の解決に貢献する学生を生み出すことを目標としています。

2022年1月26日に「図書館とともだち・鎌倉」の活動に合わせて大谷とコミュニティ人間科学部3年生3名とでNPOセンター鎌倉を訪問させていただきました。オミクロン株が猛威を振るっている中、直接お会いすることを快くお引き受けいただいたこと、まず心より御礼を申し上げます。私たちの目的は、市民による地域活動の一つとして図書館友の会という存在や活動を把握すること、そして、地域の課題を把握するためのインタビュー調査を実際に体験してもらうことでした。

学生たちは、「図書館とともだち・鎌倉」の活動取材することで地域における市民の活動の実際を学ぶことができました。そして、地域の活動に従事されている方々のさまざまな内面をうかがい、さらに地域の課題解決のために自分がどのような形でかかわっていけるのかについて考える機会を得たと思います。

さて、私は学識者という立場で自治体関係者と接点を持ってきました。彼らには対象について問題がないかのように段取りをつけたり、振る舞ったりする傾向があります。残念ながら図書館行政においても、そのような自治体に過去出くわしたことは事実です。しかし、問題がないのは彼らが用意する「文書」の中だけであり、現実の課題解決にはつながりません。課題解決に必要なのは、多様な立場の関係者が時に対立し、時に協調しながらも全体を改善していく仕組み、つまりガバナンスであると強く思っています。そして、「図書館とともだち・鎌倉」は、鎌倉市の図書館にとってガバナンスを構成する、あるいはガバナンスを機能させている重要な関係者であると認識しています。

当事者としては、日々の活動の中で成果がないと思うのかもしれません。しかし、「図書館とともだち・鎌倉」があることで鎌倉の図書館行政は改善されていますし、「ととも」が成し得たものはすごいものであることは第三者視点からは明かです。自分たちがいることそれ自体が地域を良くしていくという確信を持って、今後も活動を継続されることを心より願っております。

当日参加してくださった学生さんからも、ご感想が届きました！

「図書館とともにだち・鎌倉」をお訪ねして

青山学院大学3年 池田果耶



青山学院大学コミュニティ人間科学部の方々をお迎えして
行われた例会 (2022年1月26日)

私は3年次から図書館関連の講義を取るようになり、その中で「図書館友の会」の存在を知りました。講義だけでは知ることができないような具体的なお話を今回お聞きすることができ、図書館関連の分野を学んでいる自分にとってとても意味のあるものになりました。また今回実際にTOTOMOの皆様からお話を伺ったことで、さまざまな現状と課題があるのだと改めて感じました。特に「図書館友の会」への若い世代の関心や引き継ぎに関するTOTOMOの皆様のさまざまな意見は個人的に考えさせられる点が多かったです。自分も若い世代の1人としてできることはないか、今後とも意識しながら大学での学びを深めていきたいと感じています。この度は貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。

今年も図書館と市民団体の協働事業である図書館まつりが行われました！

・・・ファンタスティック☆ライブラリー110が閉幕しました。・・・



玉縄図書館展示の様子

2月11日から開催されていた「ファンタスティック☆ライブラリー110」が3月13日に無事閉幕しました。皆様の参加のおかげで開催できたことに感謝申し上げます。今年度（2021年度）も昨年度同様5館全館での巡回展示、図書館のHP掲載とYouTubeの配信となりました。COVID-19の影響もあり人出も心配でしたが、展示は各館の工夫がなされ個性が出ていたように思います。参加団体の減少により展示スペースが狭くなったことは残念でしたが、ホームページ掲載とYouTubeは、外出を控えている方々も参加できるので喜ばしいことでした。

(水岡やす子)

ファンタスティック☆ライブラリーのTOTOMO参加報告は、次号（会報213号）掲載を予定しています。

2月24日に鎌倉市図書館職員（司書）の湯浅由美子さんがご病気のため逝去されました

長きに亘り鎌倉市の図書館でご活躍され 特に障害者サービスの分野では利用者の方から厚い信頼を得ておられた方でした

TOTOMOの活動に於いても大変お世話になりました

ここに報告させていただきますとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます

第24回総会報告 (3月13日(日) 於: NPOセンター鎌倉)

総会次第

1. 2021年度活動報告
- 2-1. 2021年度会計報告
- 2-2. 2021年度会計監査報告
3. 2022年度活動計画
4. 2022年度予算案
5. 役員選任
6. 自由討議

当日出席者 11 名
委任状 31 名
合計 42 名(前年末会員 110 名)
※総会成立要件: 会則 13 により、
会員の5分の1以上

玉縄桜が満開となった3月13日、会員総会を行いました。昨年はCovid-19感染拡大による緊急事態宣言が発表された為、書面総会という形を取りました。今年は変異株による急激な感染拡大によってまん延防止等重点措置が取られる中、1月の予定を延期してこの時期の開催となりました。

時節柄出席者は少な目でしたが、忌憚のない意見交換をすることができ、有意義な会となりました。また、全ての議事は全会一致で承認されました。

その上で、2022年度活動計画の重点項目として既に提案している7項目に加え、司書の専門性を幅広くアピールしていく活動を行おうということになりました。具体的な方法は今後例会等で話し合っていきます。その他、図友

連など全国の仲間たちとの交流を深める活動や近代史資料室をより市民に開かれたものにする活動にも力を入れることも提案され、出席者全員が賛同しました。

今年の世話人は阿曾、黒瀬、杉崎、古矢、水岡、和田の6名。代表は和田、副代表は水岡が選出されました。会計監査は引き続き山下、吉田の2名です。(50音順、敬称略)

総会で決議された2022年度の重点項目は次の通りです。

- ① 専門職としての司書の正規職員新規採用に向けた取り組み
- ② 読書バリアフリー法をふまえた図書館の障がい者サービス拡充に向けた取り組み
- ③ 図書館振興基金の活用に関する取り組み
- ④ 図書館長、図書館職員、図書館協議会委員、教育委員、社会教育委員との懇談など
- ⑤ 旧鎌倉図書館保全活動
- ⑥ ファンタスティック☆ライブラリー企画・参加
- ⑦ NPOフェスティバル、地下道ギャラリー展、その他イベントへの参加
- ⑧ 図書館司書の専門性を幅広く理解してもらうための活動



尚、当日ご出席いただけなかった会員の方からの委任状には、何人もの方からお気持ちのこもったコメントをいただいております。別紙にして添付いたしましたのでご覧ください。(添付資料①)

図書館を取り巻く状況は楽観できるものではなく、予想しない事態に直面することも多くなっていますが、今年もできることから取り組んでまいります。(黒瀬聖子)

会報 211 号に添付の総会資料「議案2資料の会計報告」において、会計杉崎敦子の印鑑を押し忘れておりました。今後はこのようなことのないよう十分注意を払ってまいります。今回の件につきましては、ご容赦くださいますようお願いいたします。

♪寄贈本紹介♪

『とうさんかあさん』 作・ながのひでこ 石風社

絵本作家の長野ヒデ子さんからご寄贈いただきました。ほっこり優しい気持ちになれる絵本です。手に取って読みたい!おはなし会で使いたい!という方は、事務局まで。

☆長野さんからのメッセージです☆

私の45年前のデビュー作『とうさんかあさん』が石風社から再版されました。よろしく応援してください。
石風社は中村哲さんの本を出し続けている出版社です。



「写真集」は「基金」ではなく市の予算による出版となりました

昨年8月の第1回図書館協議会に諮られ継続審議になっていた写真集「(仮) 古都鎌倉へのまなざし」の出版は12月23日に開かれた第2回図書館協議会でも審議の結果、再び継続審議の扱いとなりました。図書館振興基金を使う出版事業に疑義を呈する市会議員からの文書質問(会報211号添付資料参照)が出され、市民団体からも反対の声が上がっている、図書館から丁寧な説明をして理解を得たうえで最終決定したいというのがその理由です。

TOTOMOとしては写真集の出版自体には賛同しますが、その費用に図書館振興基金(以下「基金」と略す)を充てることは「基金」条例の趣旨ならびに運用基準に反するものと考えています。市民とよく話し合っほしいという図書館協議会の判断を受けて協議会終了後に中央図書館長に話し合いを申し入れました。年末年始ということもあって日程調整の結果、話し合いは1月19日に行われました。図書館側も多く司書職員の参加があり、各職員の意見を直に聞いて良かったと思うのですが、「基金」の活用については問題ないという点で職員の認識は共通しており、平行線のまま3時間を超える話し合いは終了しました。

先に触れた市会議員からの文書質問は12月20日に高野議員から提出されたものであり、1月11日に教育長名の答弁書が出されました。議会閉会中ということで質疑は文書の形をとっています。市の回答内容に納得できないとして高野議員は1月26日に再び文書質問し、2月9日に市の答弁書が出されました。その回答は前回のものと比べてとても短いものでしたが、内容はこれまでの方針を大きく変えるもので驚かされました。「総合的に勘案し、…基金を活用するのではなく一般財源を用いて、事業実施していく」というのです。

この件で2月16日に館長と面談し同様の説明があり、一般会計予算等審査特別委員会でも竹田議員からの質問により、図書館の予算に計上されている「写真集作成業務委託料」は市の一般財源から支出され

るものであることが確認されました。続いて3月22日に開かれた第3回図書館協議会でも「報告事項」として同様の説明がなされ、委員からも特に質問、意見はなく了承されました。傍聴していてこれが「報告事項」として処理され、委員からも意見が出されなかったことに違和感を覚えました。これまで「協議事項」として審議されてきた事項であり、「基金」を活用しなくなったので審議不要になったと済ますのではなく、こういう方針変更をせざるを得なかった要因は何なのか、今後また同じような問題が起きないようにするにはどうしたらいいのかという議論が欲しかったように思います。

なぜその点にこだわるのかというと、市の答弁書では、「基金」および「運用基準」の規定では出版事業について「明示的に排除されておりません」としているからです。方針転換した再答弁でも「基金条例への合致については、前回答弁したとおりです」とし、条文解釈について見解を変えていないのです。この論理で行くと明示されていないのなら何をやってもいいということになりかねません。

また、写真集の出版は条例が規定する「貴重な図書館資料の収集、保存、保管」のためとしておきながら、別の個所では「収集・保存した資料を用いた写真集等の作成、出版」という言い方をしています。一方で所蔵写真は「保存・保管」に至っていないかのように言いながら、他方では「保存した資料」としており、ここでも論理は破綻しています。それでも市は無理な条文解釈の非を認めておらず、近い将来、また同じようなことが起きはしないかという不安はぬぐえません。今後も「基金」の本来の趣旨を明確化し再確認するための働きかけが必要と痛感しています。

(和田安弘)



☆第2回・第3回図書館協議会報告については、次号(会報213号)に掲載を予定しています。
☆高野議員の再質問書については添付資料②をご覧ください

どうなっているの？神奈川県『読書バリアフリー推進計画』

『図書館とともだち・鎌倉 お知らせ』の音声版を担当しています。聞くそばから意味が判り正しく伝わる読みを心掛けています。

現在、録音図書作成に携わる人材の高齢化や減少、また利用する視覚障害者も高齢の方が多く、録音図書を利用するための機器の操作にご苦労をされていることも問題となっています。それら問題の解決にもつながる一筋の光明、『視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）』が2019年に施行されました。そして1年後、文部科学省及び厚生労働省は、『視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画』を公表しました。お一順調に進んでいると喜んでいましたが、大阪市、鳥取県、埼玉県等で計画策定が進む中、神奈川県の情報が入ってきません。神奈川県議会2019年9月定例会で黒岩知事は読書バリアフリー法に関する質問に対し「県としては、関係機関と連携しながら、誰もがひとしく読書機会を得ることができ、文化的で豊かな人生を送ることができる共生社会を目指してまいります。」と発言されていたのですがね。



文部科学省・厚生労働省発行
普及啓発リーフレット
＊ダウンロードできます

「読書バリアフリー法」は、視覚障害者や読字に困難がある発達障害者、寝たきりや上肢に障害があるなどの理由により、書籍を持つことやページをめくることが難しい、あるいは眼球使用が困難な身体障害者が自分に合った方法で読書できる社会の実現に向けて、本をさまざまな形式で提供することを推進するために制定された法律です。（啓発パンフレットより）

https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_chisui02-000013684_02.pdf

皆さんは本を、書店やネットで「買う」と図書館で「借りる」の両方使い分けて利用していますよね？障害のある方の本の利用もその両面で利用しやすくなるようにというのが読書バリアフリー法の目指すところです。県教育局生涯学習課に聞いてみたところ、神奈川県計画策定は、単独の計画を作るか、他の計画に含めて策定するか、思案中という段階だそうです。

さて、鎌倉市図書館の障害者サービスはというと、録音・点字図書の貸出（郵送も可）、DAISY再生機の貸出、音声読書機「よむべえ」の館内での利用、サピエ（録音・点字図書の全国最大の書誌データベース）への加入等、私の住む市より充実していると思います。障害者サービスは地域によりかなりの差が出ています。それは障害者サービスに関する知識・技術を持つ専門の司書の存在が大きいと思います。折しもこの原稿を書いている時に、鎌倉市図書館で長きに亘り障害者サービスを担ってこられた湯浅司書の訃報に接することとなりました。心よりご冥福をお祈りするとともに、その御遺志をしっかりと受け継いでいただくことを望みます。そして1日も早く計画が策定され、図書館の障害者サービスがさらに充実することを願います。（松本陽子）



DAISY再生機
フレクストーク

※DAISYとは
デジタル録音図書の国際
標準規格です



「子育てサロン 西鎌倉ぽっけ」お話し会 参加報告

1月14日（金）10：00～11：30

於：西鎌みんなの家



西鎌みんなの家

今回お話し会をさせていただいた「西鎌みんなの家」は、2020年3月末に閉館した「西鎌倉子ども会館」をリニューアルしたものです。あらゆる世代にとって価値のある場とするため、地域住民の有志の方々により、2020年6月23日に生まれ変わりました。

昨年4月に「おはなしひこうせん」にお話し会の依頼があり、その後見学や打ち合わせを重ね、今回初めて実施されました。

その日はお天気にも恵まれましたので、コロナ禍にもかかわらず、6～7組の親子の方が参加してくださいました。

寅年にちなんだ絵本や大型絵本、紙芝居を読みました。そして、わらべ歌を歌いながらお手玉を使って楽しく一緒に遊びました。最初泣いていた赤ちゃんが、一緒に遊んでいるうちに笑ってくれたのが嬉しかったです。ほとんどの方が初めての話し会のような感じでしたが、皆さん楽しんでくださいました。

最後に、「西鎌みんなの家」のスタッフの方から、「読み聞かせをするときには、どんな本を選んだらよいでしょうか？」という質問がありました。

何よりもお母さんが読んで楽しい、好きだと思える本を選んでください、絵本の中には、素敵な世界が広がっています、親子で楽しんでください、とお伝えしました。

※「西鎌みんなの家」では、2022年4月と11月にお話し会をする予定です。

（石原裕子）

♪プログラム♪

- ①はじまるよ(手遊び)
- ②いないいないばあ(絵本)松谷みよ子作／瀬川康男絵
- ③おまめくんぱちぱちー(紙芝居)とよたかずひこ作・絵
- ③おてだま(手遊び)
- ④とらのことらこ(絵本)きくちちき作・絵
- ⑤だるまさんが(大型絵本)かがくいひろし作・絵
- ⑥げんこつやまのたぬきさん(絵本)長野ヒデ子作・絵
- ⑦さよならあんころもち(手遊び)

30分弱のおはなし会を同様のプログラムで2回行いました。

2回目では、③、⑤に代わり次の本を読みました。

- 2ー③ ハッハッハークション(紙芝居)ときわひろみ作・ささきみお絵
- 2ー⑤ ペンぎんたいそう(絵本)齋藤慎作



「子育てサロン 西鎌倉ぽっけ」お話し会

「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」三年目の如月を迎えて

間島夫妻の寄附を得て建てられた旧鎌倉図書館の保存と活用を願い、鎌倉の発展に貢献した夫妻についてより深く知りたいという熱い思いから2020年2月にこの会が発足しました。中断していた建物の修復工事も昨年秋に再開され、完成は来年2023年2月の予定ということです。改めてこの二年間の活動を振り返ってみました。

現在8名のメンバーは、其々図書館史や女性史等の専門分野、あるいは興味ある分野での調査を通じて資料を集め、情報を共有し、時には研究成果を発表し合い、会としてのまとまりを築いてきました。鎌倉市図書館のイベント参加や、「湘南邸園文化祭2021」のエントリーなど幅広く発表の場が持てたことは、間島夫妻への一般の関心が高まるきっかけとなりました。また、昨年は「間島弟彦生誕150年」という節目の年でした。青山学院のご協力を仰ぎながら、間島弟彦を顕彰する展覧会がこの鎌倉の地で開催されたことは、一市民としても大変嬉しく、何よりも会の活動の大きな力となりました。

鎌倉同人会会員でもあった間島弟彦氏は三井銀行の重役として知られ、また、青山学院の校友会長・理事を務めたことから、様々な資料が残されています。しかし愛子夫人についてはあまり知られていません。かつて学んだ名古屋の清流女学校や東洋英和女学校の明治期の貴重な史料、キリスト教関連の記録、女学校同窓生の著書、鎌倉中央図書館近代史資料室が所蔵する「近代鎌倉の文化人」に関する資料、御夫妻の歌集などを調べ、信仰と奉仕の心をもって豊かに過ごされたその生涯が少しでも明らかにできればと思います。近代史研究の経験の浅い私たちですが、間島夫妻のゆかりの地を訪ね歩き、そこで得たご縁を大切に、また新たな史実が判る喜びを感じながら、明治～昭和初期に間島夫妻が辿った道に思いを馳せ、それらを今後の活動の糧にしてゆきたいと願っています。

あらためて、調査等でお世話になりました関係各位の皆様へ心より御礼申し上げます。（鈴木保美）

.....

【活動の記録一部をご紹介します】

- ①資料調査「青山学院資料センター」「米山梅吉記念館」「東洋英和女学院史料室」「恵泉女学園史料室」「熱海市立図書館」「橋本市図書館」「鎌倉市中央図書館」ほか
- ②現地調査「間島家墓所がある青山霊園」「夫妻が由比ガ浜本邸と行き来していた明石町界限」「白水荘移築前の陀羅尼寺があった橋本市」「愛子氏が籍を置いていた霊南坂教会」「夫妻の最初の住处芝城山町界限」「愛子氏が受洗した鳥居坂教会とその周辺」ほか
- ③参考資料「間島冬道翁歌集」「間島弟彦集」「間島愛歌集」「若き科学者の随筆」「小伝 間島弟彦」「愛知學藝雑誌」「心の花」「鎌倉同人会史」「阪正臣全集」「霊南坂教会100年史」ほか
- ④研究発表「間島氏居処の変遷と建築」(2020.7.1)
「鎌倉図書館婦人閲覧室と間島愛子」(2020.10.7)
「鶴岡八幡宮の雪洞揮毫について」「伊波普猷の図書館構想について」(2020.10.7)
「愛知學藝雑誌と愛知社」(2020.10.7)
「間島愛子の経歴を歌集から辿る試み」(2020.12.2)
「間島夫妻の和歌に詠まれた鎌倉」(2021.3.3)
「明石町ミッション系学校発祥碑・居留地について」(2021.4.7)
「清流女学校同窓会誌の記載事項について」(2021.4.7)
「由比ガ浜邸と白水荘の変遷について」(2021.12.1) ほか
- ⑤作成資料「間島夫妻の事跡を辿る」パワーポイント資料(1時間)
「間島愛子の生涯と鎌倉」パワーポイント資料(1時間)
「間島夫妻の事跡を辿る」見学資料
「間島夫妻の事跡を辿る」地図



松坡先生をめぐる人々5 海上寿子

松坡文庫研究会 代表 袴田 潤一

喜寿を迎えた阪正臣に書画帖を贈呈した鎌山同人 16 名のうち、歌人グループの 8 乃至 9 名の指導的立場にあったのが亀廬舎主であった海上寿子(1860～1946)でした。

海上寿子は医師上林了貞の二女として江戸牛込に生まれ、15 歳から歌を高橋泥舟らに学びました。更に海上胤平の門人となり、その甥海上嘉平司に嫁しました。明治 43(1910)年から鎌倉に住むようになり、当初は田中智学の要山にありましたが、智学が要山を離れた後、扇ガ谷巽神社付近に居を構え、歌を詠むことに励みながら、亀廬舎主として門人の指導に当たりました。門下には鎌倉在住の各層の人々が集まり、百名をこえたそうです。間島愛(間島弟彦夫人、小筠)、島村米子(島村久夫人 香英)、住友玉萃(住友寛一夫人 キミ)、比田井元子(比田井天来夫人 小琴)などが知られます。

海上寿子と松坡先生との交流は海上寿子が鎌倉に来て以来のことだと思いますが、そのきっかけについてははっきりした資料がありません。しかし、多くの共通の友人がいることからそうした人たちとの交流の中で同じ文学者として親しくなっていたと思われます。海上寿子が鎌倉で最初に住んだ要山の田中智学と松坡先生は連載の第3回で紹介した片野玄貞上人を通じて交友がありました。比田井元子は松坡先生が校長を務める鎌倉女学校で書道を講じていました。松坡先生の孫女武子(二女秀の娘)が海上寿子のもとで歌を学んでいたと推察される資料もあります。

ところで、冒頭で紹介した阪正臣への書画帖贈呈については、その趣旨を記した松坡先生の手稿があります。賛同した 16 名は漢詩・和歌・絵画を嗜む者の三つのグループに分類されます。書画帖贈呈は恐らくは海上寿子が提案し、その意を受けて松坡先生が趣意書を書き、絵画の大橋康邦にも声を掛けたということではないでしょうか。中心となったのは海上寿子・

田辺松坡・大橋康邦だろうと思われます。鎌山同人 16 名については更なる分析が必要です。

海上寿子と松坡先生の交友を物語る一枚の写真があります。1936(昭和 11)年、海上寿子の喜寿を祝う席でのものだと思いますが、三幅の書画軸を背に座る海上寿子が写っています。掲載した



海上寿子喜寿祝の席(永野宗直邸)で 1936(昭和 11)年(天来書院提供)

写真では判然としませんが、三幅には向かって右から漢詩・画・和歌が書かれています。和歌は誰のものか不詳、画は大橋康邦かも知れません。漢詩は松坡先生によるものです。『漢詩春秋』(第 20 巻第 7 号 1936.7.1)所載の「賀亀廬女史七十七壽(亀廬女史の七十七の寿を賀す)」に間違いありません。松坡先生が海上寿子の喜寿を祝う七言律詩を詠み、それを書いて軸に仕立てて贈呈したものでしょう。詩の後半には、

亀廬育才歌練格	亀廬 才を育て 歌は格を練る
鎌山養老筆通靈	鎌山に老いを養い 筆は靈に通ず
彩霞潮臉長春在	さいかちょうけん 長春在り
幾朶薔薇笑膽瓶	いくたび しょうび たんへい 幾朶の薔薇 膽瓶笑う

とあります。彩霞潮臉は難しい言葉ですが、女性の美しさをいうもの、薔薇の二字は漢語で「しょうび」或いは「そうび」と読むのがいいでしょう、膽瓶は下が膨らんだ花生。海上寿子の長年にわたる歌の道での精進を称え、その美貌と長寿を祝っています。ところで、この書軸、今は何処に在るのでしょうか。

NPOセンター利用登録団体懇話会参加報告

1月23日（日）15時～17時

於：玉縄学習センター分室 第3集会室

今年度第3回目の懇話会が防災をテーマに行われました。地域防災計画に関わり、活動をされているかまくら認知症ネットワークの稲田さん、学生団体玄海の橋本さん、関谷小ブロック防災協議会の江上さんの3人のお話を伺いました。参加者は登録団体のほか、市内自治会・町内会の方、社協の方など20数名でした。災害はいつどこで起こるかわからないもの。平時に多くの人（大人も子どもも行政も自治体も市民団体も）を巻き込んで防災について遊びながら学び、考え準備することが命を守り、減災につながるのだと思いました。また、玄海の橋本さんのような若い方（高校生）が、率先して活動されていることに励まされました。

（杉崎敦子）

湘南邸園文化祭連絡協議会 第三・第四回連絡会 報告

*第三回連絡会：令和4年1月25日・第四回連絡会：令和4年3月7日 Zoomによるオンライン会議が行われました。

*文化祭開催期間：9月5日より12月12日。

47企画された内、新型コロナウイルス感染症第五波の影響で3企画は中止せざるを得ないという厳しい状況の中、県の感染症拡大防止に向けた基本方針に沿って、各団体はそれぞれの工夫を凝らして開催しました。

今後の活動についてアイデア・意見交換に度々課題となるのが、行政との協力・連携、若い人達への呼び込みです。解決案として県の歴史的建造物の調査報告書のデータを県から提供いただけないか、また大学建築史系の研究室に参加活動してもらおう、など挙げられました。

第三回連絡会に参加された鎌倉市都市景観部都市景観課の方が「鎌倉市が所有し、保存活用事業者が運営する旧村上邸は近年の参加はないが、今後はまた参加を考えていきたい」と話されたことは興味深く、是非実現されるよう願っています。

TOTOMOが企画した「間島弟彦生誕150年 間島夫妻の事跡を辿る」は講座と見学の2部構成で実施され、見学施設の一つ、国宝館で展示中の「間島弟彦と黎明期の鎌倉国宝館」の解説を国宝館学芸員の方から受けることができました。

普段非公開が多い邸園を、この期間だけ、この企画だから、と開放される邸園を、心ゆくまで楽しむようにと、多彩に企画された湘南邸園文化祭でした。

（阿部光世）



かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081） 於：鎌倉芸術館小ホール

4/7（木）『MINAMATA』

4/26（火）『モロッコ、彼女たちの朝』

5/9（月）『TOVE／トーベ』

5/24（火）『リスペクト』

6/7（火）『ダ・ヴィンチは誰に微笑む』

◎前売り券：1000円（当日券：1300円

◎上映時間①11:00～／②14:00～

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます

ボランティア連絡協議会報告（3月10日 於:福祉センター）

Covid-19の感染者が急増したため、2月の役員会、委員会では中止とし、各グループにはその旨を葉書で通知しました。2か月ぶりとなった3月の役員会では、主に総会に向けての打合せと作業を行いました。

ボラ協総会は例年5月に開催していますが、現在福祉センターの会議室がワクチン接種会場となっていて使用できない為、昨年に続き書面で行うこととしました。4月半ばに総会資料を各グループに郵送し、その内容について4月委員会で審議、5月に書面で議決を行うというスケジュールです。

一方役員選任については、推薦委員会の立ち上げが4月にずれ込んだため4月委員会には間に合いませんが、5月総会での承認を目指しています。

例年9月に行なっている福祉まつりも、総会同様会場の都合で開催が危ぶまれています。このように次年度の計画は不確定要素が多くなりますが、その時々状況に合わせ、柔軟に対応していきたいと考えています。

（黒瀬聖子）

協働事業推進部会報告

まん延防止等重点措置が実施されているため、2月18日（金）と3月18日（金）はオンライン会議となりました。参加者は2月は8名、3月は6名でした。

来年度から協働事業は「つながる鎌倉エール事業」となり、従来とは異なる点が複数あります。概要は鎌倉市HPに掲載されています。<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/npo/sougo28.html>市は、設立3年以内の市民活動団体を対象としたスタートアップコースについては説明会を実施するということですが、従来の相互提案事業にあたる「協働コース」の説明会の予定は組まれていません。この点ひとつを見ても協働部会がカバーすることは多くありそうです。

地域のつながり課が実施した、管理職・中堅職員対象の市民協働研修アンケートの結果が提示され、これについても意見交換をしました。これをみると市職員の方々にはまだ、市民協働事業の意義が浸透していないように受け取れます。それは「協働を実施するにあたり課題になること」という問いに対して「相手方に市の立場を理解してもらうことが困難」「業務負担が増える」という回答が目立つことに象徴されます。

これらを克服するためには、まずは話し合いの機会を多く持ち、問題意識を共有することが第一と考えます。協働部会としても、この月に一度の部会でつながり課担当職員と話すだけでなく、部次長を含め、積極的に話し合いの機会を作って行きたいと思います。

（黒瀬聖子）

TOTOMO活動日誌（1/19～3/30）

1/19	図書館職員との懇談	3/7	第4回湘南邸園文化祭連絡会出席（zoom）
1/20	おはなしひこうせん勉強会	3/10	ボランティア連絡協議会役員会出席
1/25	第3回湘南邸園文化祭連絡会出席（zoom）	3/13	第24回2021年度会員総会
1/26	青山学院大学からの取材	3/17	おはなしひこうせん勉強会
1/27	朴澤館長との懇談	3/18	協働事業推進部会（zoom）
1/30	鎌倉平和学習会参加	3/22	図書館協議会傍聴
2/11～3/13	ファンタスティック☆ライブ ライ 110 開催		
2/16	朴澤館長との懇談		ロビー活動 随時
2/18	協働事業推進部会（zoom）		定例会8回（1/26, 2/2, 9, 3/2, 9, 16, 23, 30）

TOTOMO COMING NEXT ! 事務局からのお知らせ



道端の花やご近所の桜が咲き、閉じこもりがちな日々にも春はやってきました。
世界中の大変な思いをされている方々にも、あたたかな春が訪れますように。

おはなしひろくせん勉強会

日 時： 4月21日（木）10時～12時 場 所：福祉センター
テーマ：ウクライナ（ウクライナとロシアの絵本、平和を願う絵本をご紹介します。）
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX 0467-22-8545）まで。

読 書 会

日 時： 4月22日（金）11時～12時半 場 所：NPOセンター鎌倉にて
テーマ本：内田洋子著『カテリーナの旅支度』（集英社文庫）と乃南アサ著『六月の雪』（文春文庫）です。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX 0467-41-4956）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日 時： 4月6日（水）13時半～16時半 場 所：NPOセンター鎌倉にて
お問い合わせは、鈴木（TEL 090-4728-5242）まで。

松坡文庫研究会 第2回講演会 「晃陽片野玄貞と田辺松坡」

講 師：袴田潤一（松坡文庫研究会代表）
日 時： 4月10日（日）13時半～15時半
会 場：鎌倉婦人子供会館 ホール
申込み：定員40名（申込み順） 参加費（資料代）： 500円当日お支払いください
電子メールまたは電話で下記までお申込みください。電子メールの場合、件名を
「講演会申込み」、本文に氏名・フリガナ・電話番号をご記入ください。
電子メール chulib@city.kamakura.kanagawa.jp
電話 0467-25-2611（鎌倉市中央図書館）

※上記の各会については、COVID-19感染の状況により、変更になる可能性があります。
参加される方はTOTOMOのHPやFBでご確認いただくか、お問い合わせください。

☆図書館友の会全国連絡会

5月15日～6月19日に予定される通信総会に向けた準備が進んでいます。また、要請行動に持参する要望書案作成に取り組んでいます。お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。



編集後記 * * * * *

☆市役所の駐車場が有料化され、会報用紙の運搬に苦慮しています。何か妙案はないでしょうか。(A.S)

☆3月22日から蔓延防止等重点措置は解除されましたが、まだまだ安心できない日々です。
「集まること」を心置きなく楽しめる日が、一日も早く戻ってきますように。(M.S)

題字・巻末カット：小島寅雄 2022年3月30日発行
図書館とともだち・鎌倉（代表：和田安弘）編集：阿曾・黒瀬・目黒・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail：toshokantomodachi@gmail.com

